

JIAM FINTECH SQUARE

NEWS LETTER IN JANUARY 2019

FINTECH FOR ASSET MANAGEMENT IN JAPAN

私ども JIAM (Japan International Asset Management Center Promotion) では、2018 年 7 月から 11 月までの間、日本に拠点を置く資産運用会社 26 社のトップマネジメントの方々の協力を得て、フィンテックを含むテクノロジーへの期待、活用の可能性、あるいは活用に際しての課題をヒアリング調査した (JIAM Fintech Survey)。その結果を集約すると、以下に掲げる 10 項目が明らかになった。

1. 60%以上の資産運用会社が、今後、Alternative data を活用した商品や投資戦略が戦略上最も重要になるのではないかと考えていること。
2. 一方で、約 70%の資産運用会社が、Alternative data を活用した商品や投資戦略を模索しているものの、Alternative data のコストが高く、また、データ・カバレッジが限定的であるため、収益に結び付けることに苦戦していること。
3. 約 75%の資産運用会社が、投資家は人工知能の能力を過大評価していると考えていること。
4. 一方で、約 60%の資産運用会社が、人工知能の活用領域は、チャートとコメントの整合性の確認やチャートから分析コメントを自動生成することといった単純作業に適していると考えていること。
5. 約 65%の資産運用会社が、インデックスをトラックすることは人間が行うべき仕事ではないと考えていること。
6. 約 50%の資産運用会社が、ロボ・アドバイザーの効用を運用の高度化ではなく、商品販売チャネルの低コスト化と見ていること。
7. ほぼ全ての資産運用会社が、機関投資家に対するレポート業務が煩雑で、報告要件の標準化とポータル化によって、日本の資産運用業の競争力が高まると考えていること。
8. ほぼ全ての資産運用会社が、日々の純資産価値の二重計算と 1 円単位の突合作業に価値が無いと考えていること。
9. 約 80%の資産運用会社が、仮想通貨を投資対象として見ていないこと。

10. 約 90%の資産運用会社が、ビッグデータの品質とそれを管理するためのコストが今後の重要な要素になると考えていること。

※ この調査結果の詳細は、別紙「Fintech for Asset Management in Japan - Key takeaways from interviews with 26 asset management firms」を参照。

ALTERNATIVE DATA

60%以上の資産運用会社が、Alternative data を活用した商品や投資戦略の重要性が高いことが明らかになった。一方、多くの資産運用会社において、Alternative data の実用には至っていないようであった。

現時点で Alternative data の日本語訳は存在しないと思われ、その定義も明確でないが、一般に、衛星画像、気象パターン、ウェブ・トラフィック、ソーシャル・メディアでのセンチメントなど、非伝統的なデータを指して用いられている。

クオンツ系ヘッジファンドでは、長年にわたって Alternative data が活用されてきているが、機械学習や自然言語処理能力が高度化するにつれ、その他の運用手法においても Alternative data への注目が広がってきているようだ。

JEFFERIES & BATTLEFIN ALTERNATIVE DATA DAY IN HONG KONG

Alternative data への注目が高まるなか、Jefferies 社は、BattleFin 社 (Alternative data プラットフォームを提供するスタートアップ企業)と共同で、「Alternative Data Discovery Day」というマッチング・イベントを年 4 回開催している。

JIAM は、Jefferies 社の招待により、2018 年 11 月 6 日に香港で開催された「Alternative Data Discovery Day」に参加した。このイベントでは、午前中はセミナーが開催され、Alternative data の種類、活用事例、Alternative data に関する法規制や倫理上の課題、データ・サイエンティストの役割などが議論された。午後には、20 社以上の Alternative data 事業者との 1 対 1 のマッチング・ミーティングが開催された。

このイベントへの参加を通じて以下の気付きが得られた。

1. 衛星画像やドローンを活用した画像解析に注目が集まっているが、画像の精度や法令上の取扱いに課題が多く、現時点で実用例は少ないこと。
2. Crowdsourcing を活用し、人間が地道に足で稼いだデータの方が、実用性に対する評価が高いようであること。
3. 中国の既存の統計情報の信ぴょう性が欠けるため、中国政府以外から発信される同国に関する消費動向等のデータが Alternative data として取り扱われていること。一方で Alternative data の精度を検証する手段が無いため、欧米の投資家は対中国投資で情報不足による苦戦を強いられていること。
4. Alternative data のプロバイダの数が急速に増加しているものの、そのデータの精度が不確かなため、Alternative data の gate keepers や aggregators などが台頭していること。

※ この「Alternative Data Discovery Day」は、次回、2019年1月29日にMiamiで開催され、100社以上のオルタナ・データ業者が参加する予定とのこと。

PREMISE => [HTTPS://WWW.PREMISE.COM/PLATFORM/](https://www.premise.com/platform/)

比較的実績のある Alternative data プロバイダの一社として、PREMISE 社が挙げられる。この PREMISE 社は Crowdsourcing によって世界各地、特に発展途上国における様々な intelligence の情報収集を行っている。

PREMISE 社は既に、Bridgewater、Two Sigma、Orbis など大手のヘッジファンドにサービスを提供している。また、Asia Development Bank や Pentagon などの政府機関にも情報を提供していることである。

PREMISE 社のソリューションは近々 JIAM Fintech Square で展示することとしたい。

CANADA FINTECH FORUM IN MONTREAL

JIAM は、カナダのケベック州政府在日事務所の招待により、2018年10月29日-31日にカナダのモントリオールで開催された「Canada Fintech Forum」に出席した。

今年で第 6 回目を数える「Canada Fintech Forum」は、FRB の前 Chairwoman である Jannet Yellen 氏のスピーチで開幕し、120 名以上のスピーカー、総勢 2,500 名以上が参加するカナダ最大規模のフィンテック・フォーラムである。

このフォーラムの主催者であるケベック州の金融プロモーション組織「Finance Montreal」は、フランスのフィンテック企業の集積拠点である「Station F」をモデルとして「Station Montreal」という名称の Fintech Incubation Platform を 2019 年に開設することを本イベントで大々的に PR していた。この「Station Montreal」は経費の 50%を政府が支援するとのことである。

「Finance Montreal」は、本フォーラムにおいて提携関係にあるフランスの「Finance Innovation of France」と連携し、フランスのフィンテック企業を積極的にプロモートしており、JIAM Fintech Square で展示しているフランスのフィンテック企業 Lingua Custodia 社にも会うことができたが、カナダの金融機関はフランスの企業にはあまり関心を示していないようにも感じた。フィンテックは地場産業的な意味合いが強いようである。

日本進出に関心を持った資産運用系 Fintech 企業の数はいかならずしも多くはなかったが、以下の企業から日本進出および JIAM Fintech Square での展示に関心を得られた。

- Croesus 社 - 1987 年に Montreal で創業。Wealth Manager がクライアントとのコミュニケーションを円滑にするためのポートフォリオ最適化支援ツールを提供している。
<https://www.croesus.com/>
- Innovestor 社 - 1999 年に Montreal で創業。Canada 市場に関する market intelligence data & software を専門としており、Index や ETF も提供している。
<http://www.inovestor.com/en/firm/>
- softTarget 社 - 2000 年に Montreal で創業したソフトウェア企業で、人工知能を活用したポートフォリオのリバランスを実施するためのツール「iBalance」を提供している。人工知能はトロント大学がディープラーニングの先駆者と言われているように、カナダが得意とする分野である。
<https://www.softtarget.com/>

このフォーラムは、会場の動線も良く、ロジスティクスのスムーズさが印象的であった。また、他国のフィンテック・フォーラムとは様相が異なり、懇親会のディナーも立食ではなく着席形式で行われ、参加者の服装もフォーマルだった。

JIAM は、2018 年 11 月 12 日-16 日、シンガポール通貨金融庁（MAS）が主催する「Singapore Fintech Festival 2018」に参加した。

このイベントは、シンガポール政府が競争力強化の一環としてフィンテック振興を目的に 2016 年から毎年開催しているもので、世界最大級のフィンテック関連イベントといえる。今回は、シンガポールが同時期に ASEAN 議長国として ASEAN 関連首脳会議を開催していたこともあり、アジア周辺国に限らず、欧米からの注目も高く、世界約 130 か国・地域から 45,000 人近くが参加する大盛況となった。カンファレンスでは、シンガポール政府幹部のほか、インドのモディ首相、カナダのオールドー首相、国際通貨基金（IMF）のラガルド専務理事などが講演した。

また、ASEAN のスタートアップ企業のプレゼンテーションが多数設けられるなど、過去 2 回と比べてより ASEAN フォーカスの強いイベントとなっている。東南アジアの地域的な特性もあり、マイクロファイナンス、クラウドファンディングなどの inclusive finance 関連のフィンテックソリューションが多数ブース出展していたことが特徴的である。

開催レポートは以下のリンクを参照。

https://fintechfestival.sg/wp-content/uploads/2018/12/SFF-2018-Post-event-report_FINAL-INTERACTIVE.pdf

ビットコインなどのクリプト商品を除いた伝統資産関連の資産運用系フィンテックについては、以下を含む KYC、コンプライアンス関連のソリューションが複数紹介されている。

- Cleo.one 社 - コンプライアンス担当者向け銘柄モニタリングツール。シンプルなユーザーインターフェースで、中小規模のコンプライアンス部門向けに適したソリューション。
<https://cleo.one/>
- Cred 社 - 「関心がある／好きなモノ・コト」をアンケート形式で聞きながら投資対象銘柄の選定を行うポートフォリオ提案・管理ツール。<https://www.credinvest.co/>
- Bond IT Asia Limited 社 - 債券に特化したアドバイザーツール。保有期間や取引タイミングに応じたリスク・リターンシミュレーションが容易に行うことができる
<https://www.bonditglobal.com/>

NEXT STEPS

この度の JIAM Fintech Survey を通じて、Alternative data への関心度が高いことが明らかになった。今後、JIAM Fintech Square において、資産運用系 Fintech ソリューションのみならず、Alternative data の展示紹介を開始していくこととしたい。

また、アセット・オーナーを含めた、資産運用エコシステム全体の近代化が重要であることも明らかになった。アセット・オーナー側のヒアリング調査を実施するなど、テクノロジーの活用の可能性と課題を浮き彫りにしていきたいと考える。

さらに、JIAM Fintech Square で展示しているいくつかのソリューションのユースケースも紹介する予定である。

以上

This report is produced by the Consortium of Japan International Asset Management Center Promotion (JIAM) for the use of JIAM Fintech Square members and has been reviewed by JIAM Representative Directors.

Copyright: 2019 JIAM

FinGate Kabuto, 6-5 Nihonbashi Kabutocho, Chuo-ku, Tokyo 103-0026

<https://jiam.tokyo>